



日本女性科学者の会

The Society of Japanese Women Scientists (SJWS)

平成21年度補正予算、平成22年度概算要求、 第4期科学技術基本計画に係る要望書

平成21年5月
日本女性科学者の会

1. 競争的研究資金制度によるプログラムのPDCA (plan-do-check-act) サイクルの推進

我が国では、第2期科学技術基本計画以降、競争的研究資金制度の充実が図られ、現在、政府全体で約4,900億円の予算配分が行われている。今後、本制度が一層の効果を上げるとともに、科学技術コミュニティを構成する研究者・技術者・支援者のモチベーションとモラルの維持・向上を図るためには、客観的かつ実効性の高い評価が効率的に行われる必要がある。

このため、事業に投入された費用と効果との見合いを十分に量り、優れた成果とそうでないものを吟味し、できるかぎり正確に事前・中間・事後の評価を行い、将来につながる効果的なアクションを推進することが重要である。特に、億円単位の多額な研究資金が拠点配分される際には、オープンで公正な意思決定プロセスが不可欠である。

以上の考察を踏まえて、実現が望まれる3項目をここに提案する。

- (1) 科学的・倫理的・経済社会的な客観的・具体的評価基準の確立
- (2) 利害関係から独立した評価・審査体制の確立
- (3) 評価に基づく報奨とペナルティーのシステムの確立
(特に大学機関等に課せられたシステム改革プログラムでは必須)

本提案の効果的・効率的な実行のため、平成21年度補正予算と平成22年度概算要求において、多額の資金が投入される競争的研究資金制度・事業に係る企画立案・事前評価・効果的実行のためのワーキンググループを早急に設置するとともに、所要の調査業務及び制度化のために必要な予算充当が望まれる。また、本提案の実効性を中長期的に担保するため、本項目が「第4期科学技術基本計画」に盛り込まれることを希求する。

2. 優れた科学者・技術者の参画による意思決定

未来への投資として科学技術分野に投入される資源（資金・人材・施設・機器・情報）は多大である。一方、激しい国際競争の中で、科学技術水準の顕著な向上と高度なイノベーション創出が期待される分野や研究者・機関への資源配分の「選択と集中」は不可欠である。

このための意思決定・判断は、我が国の将来を決めるものとして極めて重要であり、資質に優れた科学者・技術者を中心に行われる必要がある。

したがって、上記1.とも関連するが、評価・審査・計画決定に関わる人材選任に当たっては、資質基準をオープンで公正なプロセスで決定し運用することが望まれる。現時点では、ノーベル賞選考基準等を参考に、以下の項目を中心に早急な検討が進められることを期待する。

また、科学技術の進展の速さと創造性・多様性の重要性に鑑み、意思決定人材が偏らないように一定期間は非再任とするなどの基準設定に係る検討が必要と考える。

（必要な資質基準）

- （1）業績がある（論文数だけでなく、新しい価値創造の視点と実績、社会への貢献度が期待される技術創出かなどの視点も考慮する）
- （2）科学・技術分野全体に対する理解・見識が広い（異分野・新規性・将来性の理解・洞察能力、自己の研究分野の位置づけが理解できる）
- （3）モラルが高い（自己の研究分野等に過度な利益誘導をしない、評価結果を歪曲しない、過去に高額研究予算の不正取得歴がない等の社会良識・倫理観を有する）

特に、（2）は、平成21年度、22年度の先端研究支援の拠点リーダーに関する選考基準として、採用・実施されることが極めて重要といえよう。

先端研究支援では、十億円規模の高額な予算が一研究者に集中することから、リーダー選考を誤って資源配分の選択と集中を行った場合、その後の科学技術分野の発展に甚大な影響を及ぼす。以上、拠点リーダーと研究課題の選考におけるプロセスをオープンにし、同時に、上記3項目を選考基準として採用することにより健全な研究活動とその支援が可能となることをここに付言する。